

桐蔭学園の探究（中等教育学校） ー「自己の在り方生き方と一体不可分な課題」の設定を支 える「承認印チャレンジ」の取組ー

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



郡司 直孝

ぐんじ なおたか

桐蔭学園中等教育学校 探究科主任・情報科教諭

北海道教育大学大学院教育学研究科（修士）

北海道長万部町立長万部中学校 教諭

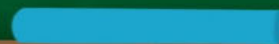
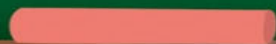
北海道鹿部町立鹿部中学校 教諭

北海道教育大学附属函館中学校 教諭 を経て

2023年4月より現職

日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)情報活用能力
の授業力育成事業 委員

NHK学校放送番組「ツクランカー」番組委員 など



No363



「自己の在り方生き方」をテーマにした 柔軟な教育課程の先行事例 として参考にしてください

静岡大学教育学部附属浜松小中学校の研究発表会（溝上講演録）

動画チャンネル「溝上慎一のエデュケーション」



No359



自己の在り方生き方を踏まえた 探究的な学習を目指して

高澤良輔先生
(芝浦工業大学柏中学高等学校 教諭)



動画チャンネル「溝上慎一の教育論」

No242

桐蔭学園高等学校の探究 「未来への扉（みらとび）」の発展



生徒に徹底的に権限譲渡
パフォーマンス課題で教科に繋ぐ



溝上慎一の教育論「動画チャンネル」(基本的に毎週水・土に配信しています)

それではご覧ください

- 研究、著書、実践等の紹介
- 溝上との議論

「自己の在り方生き方と一体不可分な課題」の設定を支える

桐蔭学園中等教育学校「探究科（未来への扉：みらとび）」
における「承認印チャレンジ」の取組

桐蔭学園中等教育学校 探究科主任

郡 司 直 孝 GUNJI Naotaka



桐蔭学園中等教育学校 探究科：「未来への扉（みらとび）」

探究の授業を通じ“自分の力で未来へ飛び立てるようになってもらいたい”という願いを込める



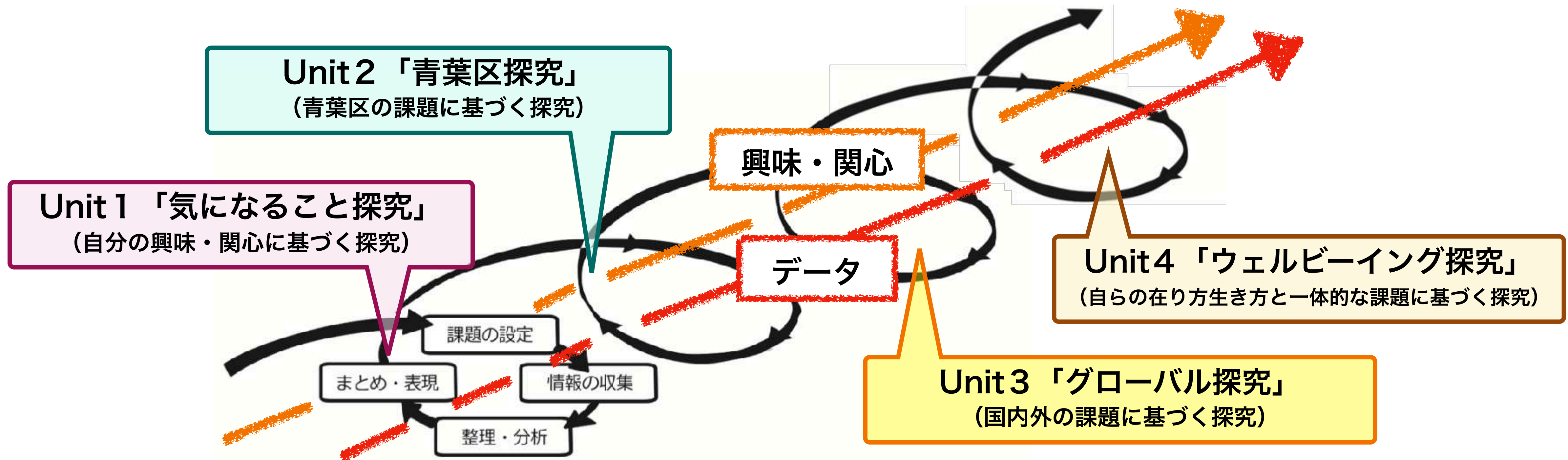


「課題の設定」から「情報の収集」「整理・分析」を行い
とりあえずの「答え」を導き出し
「まとめ・表現」を行うまでを
生徒が自律的に展開することができる

≡ 二研究者を育てるのではなく
自分の生活と自分の社会をよりよくする「市民」
を育てる内容と展開を直接的に実現する



自分と社会のウェルビーイングを追求する「市民」として
自ら考え 判断し 行動できる18歳の育成



探究に必要なとなる25のスキル
TOIN SKILLS

Chromebook / Google Workspace
の導入と活用

デジタル・シティズンシップの
育成に向けた学びの展開



中等5年

Unit 4 : 「ウェルビーイング探究」 (自らのあり方生き方と一体的な課題に基づく探究)

自分に関わる実生活や実社会の課題を 個人で 探究する

- ・ 自分のあり方や生き方と一体的な課題を設定する
- ・ 適切な方法で収集・整理・分析した情報を 根拠とした具体性と実現可能性ある自分の主張を表現する

中等4年

Unit 3 : 「グローバル探究」 (国内外の課題に基づく探究)

国内・世界規模で見られる課題を 他者と協働で 探究する

- ・ 教科等での学びや生活経験等に基づいた 探究するにふさわしい課題を設定する
- ・ 適切な方法で収集・整理・分析した情報を 根拠とした具体性と実現可能性ある自分の主張を表現する
- ・ 模擬国連に向けた取り組みを通して 視座の転換を図り、 学びの成果を模擬国連の場で表現する

中等3年

Unit 2 : 「青葉区探究」 (青葉区の課題に基づく探究)

青葉区の課題を 他者と協働で 探究する

- ・ 示された「青葉区の課題」に基づいた 探究するにふさわしい課題を設定する
- ・ 主に 文献やインタビュー、アンケート、電子メールでの質問から収集・整理・分析した情報を 根拠とした具体性と実現可能性ある自分の主張を表現する

中等2年

Unit 1 : 「気になること探究」 (自分の興味・関心に基づく探究)

自分の「気になること」を 他者と協働で 探究する

- ・ 示されたテーマの中から自分の「気になること」に基づいた 探究するにふさわしい課題を設定する
- ・ 主に 書籍や新聞、webページから収集・整理・分析した情報を 根拠とした具体性ある自分の主張を表現する

中等1年

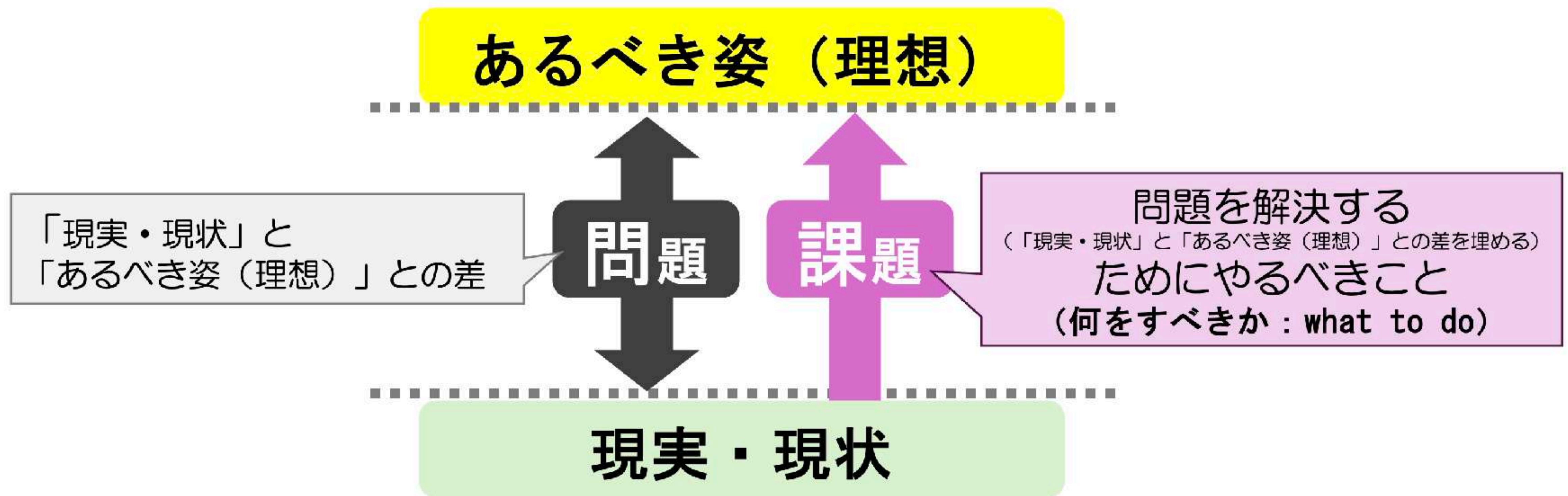
ウェルビーイング
探究で追究したい
問題や課題等を
蓄積し続ける

「承認印チャレンジ」の前に



「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」

→ 「好きなこと」からではなく、**「ネガティブな気持ちになる（なった）こと」から出発する**



コツ：「悲しい」「苦しい」「がっかりした」「怒りを感じた」「疑問を感じた」「悔しい」「困った」というような気持ちになった情報（ネット情報、本、映画、自分の経験など）を思い出したり、検索したりすると書きやすいかもしれません

「承認印チャレンジ」の前に



同じような「課題」が繰り返される（中高生は「睡眠」「暗記」「ゾーンに入る」が大好き）

→先輩の探究を「乗り越える」（同じ課題は「承認印チャレンジ」で認めない）

桐蔭学園中等教育学校 探究科（みらとび）のポータルサイトです

【重要なお知らせ】

2025/6/14 「中等1年サイト」の夏休みの課題までの「◆説明スライド」などを追加しました **NEW!**



中等1年サイト



中等2年サイト



中等3年サイト



中等4年サイト



中等5年サイト



これまでの探究の成果



探究に役立つサイト



TOIN SKILLS

マイドライブ > これまでの探究の成果...

種類

ユーザー

最終更新

ソース

名前 ↓

オーナー

最終更新 ▼

ファイルサイ

| | | | | | |
|-----|------------------------|----|------------|----|--------|
| PDF | 長寿ランキング1位「日本」の秘訣.pdf | 自分 | 2025/02/27 | 自分 | 545 KB |
| PDF | 朝の勉強効率を上げる方法.pdf | 自分 | 2025/02/23 | 自分 | 807 KB |
| PDF | 中高生版の英会話放課後活動は英語学習に... | 自分 | 2025/03/05 | 自分 | 267 KB |
| PDF | 地方の人口流出を防ぐためには.pdf | 自分 | 2025/03/08 | 自分 | 483 KB |
| PDF | 地震予報を目指して.pdf | 自分 | 2024/03/13 | 自分 | 1.1 MB |
| PDF | 地震を細かく予知するには.pdf | 自分 | 2024/03/13 | 自分 | 248 KB |
| PDF | 地球上の重力が半減したら人体にどんな影... | 自分 | 2024/03/11 | 自分 | 258 KB |
| PDF | 誰でもジャンプ力をあげられる方法.pdf | 自分 | 2025/03/10 | 自分 | 157 KB |
| PDF | 第二次反抗期のない子供はどのような家庭... | 自分 | 2025/02/27 | 自分 | 272 KB |
| PDF | 第一印象における髪型の重要性.pdf | 自分 | 2025/03/12 | 自分 | 2.1 MB |
| PDF | 大型動物を飼育できる動物園を増やすには... | 自分 | 2025/03/05 | 自分 | 198 KB |
| PDF | 対面時のコミュニケーションにおける意見... | 自分 | 2025/03/05 | 自分 | 173 KB |

承認印チャレンジ



※中等1～3年は教員2名（Step2まで）、中等4年は教員3名（Step3まで）

※授業担当者以外の教員も「承認印チャレンジ」に関わり、**設定された課題や立案された仮説を確認し承認印を押す**役割を担う



※「考え直す」の後の再チャレンジときには、最初と違う先生に行ってもよい（Step1は授業担当の先生のみ）

承認印チャレンジ



教員にお伝え・お願いしていること



教員の皆様、ご協力お願いします

桐蔭学園中等教育学校 探究科（2025）

中等4年みらとび「承認印チャレンジ」への関わり方

探究（みらとび）では、生徒が、自分たちが設定した課題を「学年の先生」または「その学年の探究を担当する先生」に説明し、合計3名の先生から承認印を受ける「承認印チャレンジ」をクリアすることによって、正式な課題として探究的な学びをスタートすることとしています。

本資料では、（1）生徒が「課題と仮説を複数の先生に説明する」という活動を行う目的、（2）生徒が先生のもとへ来たときをお願いしたいご対応 を記載しております。

ご多用のところ大変恐縮に存じますが、ご高覧のうえ、ご無理のない範囲にてご対応いただき、生徒の探究的な学びをよりよいものへ高めていくお力添えをお願いしたく存じます。



（1）生徒が「課題を複数の先生に説明する」という活動の目的

- ①生徒が自分たちの思っていること、考えていることを認識するため
- ②生徒が自分たちにはなかった視点を手に入れるため

【参考】伊藤守「コーチング・マネジメント」ディスカヴァー・トゥエンティワン、p.94,96

私たちが人と話している時というのは、思っていることを言っている部分もありますが、同時に話している最中に自分が何を思っていたかに気づく場合も少なくありません。こうしてみると人が話すという行為には、単に相手に情報を伝達するだけでなく、会話することで自分が何を思っているかを知るといった目的が含まれていることに気づきます。つまり相手に話しかけながら、自分でも自分の声、自分のアイディアを聞いているということです。

人は会話を交わし、言葉にしてアウトプットすることで、自分のアイディアを認識することができます。人は自分の内側の情報を一度外に出さないと認識できないのです。すなわち、話す相手はいなければ、自分の思っていることにも気づけません。これが、私たちが話す最大の理由のひとつです。

（2）生徒が先生のもとへ来たときをお願いしたいご対応

生徒に説明させてください

- ◆言われたものを見るのではなく、**生徒が口頭で説明する**ように促してください。
- ◆生徒が説明している間（終わりを示していないとき）は、**最後まで説明に耳を傾けて**ください（相槌を打ったり、生徒の沈黙を待ってあげるなどの対応をお願いします）。
- ◆ただし、**あまりにも説明が不十分な場合や沈黙の時間が長い場合には、説明を終わらせて**ください（「まだ準備できていないみたいだから、もう一度準備し直しておいで」など）。
- ◆説明のための時間を事前に示す方法もあります（「3分以内で説明してみて」など）。
- ◆**説明を聞くことができない状況の時は、遠慮なく「今は話を聞けない」と生徒にお伝え**てください。

生徒に問いかけてください

- ◆高校における探究的な学びでは、「自己の在り方や生き方を考えること」が大切です。具体的には、**「実社会や実生活と関わりがあって、自己のキャリア形成の方向性に関連づけて行うこと」が求められます**。これが、中学校の探究との大きな違いです。
- ◆そのため、承認印チャレンジの際には、**「なぜ、この課題の分野に関心を持っているの?」「この課題を突き詰めて考えると、どんな社会や暮らし、あなたに役立つと思う?」「この課題であなたに関係していることって何?」「この課題で、あなたが大切にしている考えや気持ちは何?」**などの問いかけをお願いします。

承認印の押印をお願いします

- ◆基本的に、生徒の説明をお聞きいただいた後、承認印を押してください。
- ◆ただし、あまりにも課題がまとまっていなかった場合や不十分な場合には、「もう少し準備をしておいで」と伝えてください。このとき、承認印は押さないでください。
- ◆承認印は不正の防止と承認日確認のため、**桐蔭学園の氏名入り検印**をご利用ください。
- ◆承認印を押さなかった場合、「承認印チャレンジワークシート」表面の「課題」以下の部分のワークシートを生徒にお渡しください。

※+αとして、次のような関わり方も考えられます

- ◆生徒の説明でわからないこと、疑問に思ったことを**問い返して**ください
 - ・定義の確認：「この言葉はどういう意味で使っているの?」
（例）「中学生の睡眠時間について」→「中学生って、全学年?それとも2年生だけ?」
 - ・検証方法の確認：「この仮説はどうやって検証するの?どうやって確かめるの?」
（例）「アンケートによって…」→「誰にアンケートするの?どうやってやるの?」
- ◆**「1年間で生徒が自分なりの答えを出す」**ためのアドバイスをしてください
 - ・対象は適切であるか?「もっと対象を絞った方がいいんじゃない?」
（例）「中学生の睡眠時間について」→「『中学生』を『桐蔭学園中等教育学校1年生生徒』にしたら、検証しやすくなるんじゃないかな?」
 - ・探究に耐えられるか?「この課題だと、調べるだけで答えが出ちゃうんじゃないかな?」
（例）「中学生の睡眠時間について」→「これだと調べたことを発表して終わりに終わっちゃうから、『睡眠時間を何時間以上確保する』のような言い方にしたらどう?」
 - ・方法は適切であるか?「その方法を実際にやってみることは難しいんじゃないかな?」
（例）「脳波を測定する機械を活用して…」→「その機械はどこでやるの?あてはあるの?脳波を測定する以外で、その課題に関する情報を集めることのできる方法はないかな?」

ご不明な点などがありましたら、探究科主任・郡司へご質問ください。



- ①生徒が自分たちの思っていること、考えていることを認識するため
- ②生徒が自分たちにはなかった視点を手に入れるため に取り組めます

生徒に口頭で説明させてください。教員は最後まで耳を傾けてください。

生徒に問いかけてください

【自己の在り方生き方と一体不可分な課題にするために】

- 「なぜ、この課題の分野に関心を持っているの？」 「この課題であなたに関係していることって何？」
- 「この課題を突き詰めて考えると、どんな社会や暮らし、あなたに役立つと思う？」
- 「この課題で、あなたが大切にしている考えや気持ちは何？」

【自律的に探究を展開するために】

- 「これはどうやって確かめるの？」 「先行研究は読んでみた？」 「アンケートは何人に実施するの？」

【具体的な探究とするために】

- 「この言葉はどういう意味で使っているの？」 「ちょっと取り組むことが多いんじゃない？」

承認印チャレンジを経た生徒の変化



「人が集まる道の駅を作るにはどうしたらいいか？」を考えたいです

横浜市に道の駅はあるの？

わかりません。調べてきます。

横浜市にはないみたいです。

そしたら「横浜市に『人が集まる道の駅』を新しく作るには？」
にして具体的な案を考えてみたら？

おもしろそうです！考えてみます！





私、お母さんの実家の三重によく行くんですけど、
そこの道の駅が気になるんです

おお、いいね。
そしたら「三重の道の駅を元気にするには？」を考えたら？

考えてみます！





私、お母さんの実家のことが気になってきました。

どういうことか教えてもらえる？

お母さんの実家は食品問屋をやっているんですが、
跡継ぎがいなくて困っているんです。

なるほど。

そしたら、その問題意識を課題にしたらいんじゃない？

**後継者のいない母の実家の食品問屋を
発展させるためには何が必要か**

※この課題への探究を通して、自分がこの課題の主体になれることを考える
→経営学部への進学を検討



ありがとうございました

